

<参考資料> 「ウェルビスタ ケアスタジオ」1号店(中野新橋)利用者の声<一例>

ケース 1/ 55 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (60 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
くも膜下出血(2年)	半身まひ・高次脳機能障害	もう一度働きたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害による左側の注意不足や物忘れが軽減</li> <li>・着替えが早く楽になったことで身支度が円滑になり、復職へのモチベーションがあがった</li> </ul> <p>身体は元気そうに見えますが、左側の認識が乏しく、歩くと左側をぶつかけたり、着替えで左右がわからなくなったりと日常生活動作がうまくできず、復職の課題となっていました。リハビリをはじめて1週間で生活の変化に気づき、日常生活が楽になり自信ができました。</p> <p>今後は復職のためのリハビリプランに挑戦。徐々にステップアップできていることに喜びを感じています。</p>		

ケース 2/ 50 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	家族や友人と外食や買い物を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く恐怖感が薄れ、リハビリが「楽しみ」に変わった</li> <li>・右足裏の間隔がつき、右腰の力がついた</li> <li>・バランス力がついて歩幅が広がった</li> </ul> <p>足裏の間隔がないことでわずかな傾斜や段差に恐怖を感じ外出時は車いすで介助が必要でした。今では恐怖心を克服し自分の足で自宅から出ることができるようになりました。次の目標は家族や友人と食事を楽しむために外でのリハビリプランを計画してもらいました。自分の希望や目的にあわせて細かなリハビリプランの変更ができるのが個別リハビリの気に入っている点です。</p>		

ケース 3/ 50 歳(男性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳梗塞(2年)	右の片麻痺	趣味を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕が振り上げられるようになった</li> <li>・筋力・体力が向上した</li> <li>・外出が楽しくなった</li> </ul> <p>本当は自分の足に見切りをつけ、あきらめていました。でも趣味のゴルフをあきらめきれずにお試しでリハビリを開始し、個別でみてもらうことでよくなることを実感。そして、最低限ではなく最高を目指し、身体の改善以上に、ゴルフを最大限に楽しめることを目標にしました。一か月のリハビリでゴルフのフォームもきれいになりました。またリハビリを通じて緩やかな足の動きができるようになったことで、車を安全に運転できるようになり、乗り降りもスムーズにできるようになりました。今後も生きがいを取り戻していきたいです。</p>		

ケース 4/ 50 歳(女性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	通勤の恐怖心を克服したい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足をあげるのが楽になった</li> <li>・歩行速度があがった</li> <li>・ストレスなく会社に通えるようになった</li> </ul> <p>右半身の麻痺が残り、外出は家族のサポートが必要など日常生活に支障が出ていました。さらに通勤となると一段とハードルが高く、電車の降車や横断歩道を青のうちに渡ることができず、恐怖でしかありませんでした。</p> <p>リハビリでは積極的に外に出て、歩行だけでなく恐怖心の克服にも取り組みました。今では歩くスピードも速くなり、横断歩道も青信号のうちに渡りきれようになりました。定期的に見てくださる医師も、その回復ぶりに驚いてくれています。</p>		

ケース 5/ 66 歳(女性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
パーキンソン病(5年)	ふるえ・身体の固縮	引きこもりがちな今を変えたい いつかまたキッチンに立ちたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根菜類が切れるようになった</li> <li>・家族に料理が作れるようになった</li> <li>・移動時の不安が解消された</li> </ul> <p>移動は家族の介助が必要、自分の家なのに階段の昇り降りさえできない。徐々に気持ちまで後ろ向きになり、自宅に閉じこもりがちでした。そんな現状を変えたい思いを胸にリハビリに取り組みました。</p> <p>初めは小さな動作ができるようになるリハビリプランに取り組みました。徐々に服の着脱がスムーズになり、自信を感じるようになりました。毎回 2 時間の個別リハビリで、介助なしで自宅階段移動ができるようにもなりました。さらに「孫にカレーを作ってあげること」を目標に取り組んだ 1 か月の集中リハビリに取り組みました。リハビリ前は包丁を握る力が弱く、固く切れなかった根菜が切れるようになり、リハビリ最終日にはその成果を披露する意味でカレーを作りました。家族に食べてもらい本当にうれしかったです。また料理ができる喜びを感じ、気持ちが前向きに明るくなりました。</p>		